

先生の質向上を考える —先生としての勉強の仕方とは—

開倫塾
塾長 林 明夫

Q：開倫塾では、なぜ毎年全国模擬授業大会を開催しているのですか。

A：(林明夫：以下省略)

(1)教育の質を向上させるためです。教育の質を向上させる上で最も有効な方法の一つは、授業の質を向上させることです。授業の質を向上させるには、導入部分の指導をできるだけわかりやすく、また、丁寧に行うことが大切と考え、全国の先生方が15分間の模擬授業を披露し合いお互いに切磋琢磨する全国模擬授業大会を開催しています。

(2)私は、教育改革の本丸は授業の質的向上と考えます。模擬授業大会を通じて先生が質の高いよい授業を目指せば、素晴らしい教育が可能となります。「チョーク一本で教育改革」を目指したいと思います。

(3)2年前からは韓国教育界のリーダーである安長江先生のお世話で英語で英語の模範授業をしてくださる先生をお招きしていますので、国際大会とさせて頂いています。昨年までは韓国の現職の高校の先生をお招きしましたが、本年は日本の学習塾・予備校にあたる韓国の「学院」から有名講師の先生をお招きする予定です。

(4)ところで、「一人模擬授業」は極めて有効です。1日1回は「一人模擬授業」を行い、授業力を高めてください。

Q：授業の質を上げるにはどうしたらよいと考えますか。

A：(1)授業ごとの「レッスン・プラン」に基づき、毎回の授業を積み重ねることが最重要と私は考えます。

(2)まずは、教科や学年、児童・生徒・学生の実情に応じた年間の「授業計画」を練り上げる。その上で、クラスの実情に応じて毎回の「授業の設計」を行う。「授業の設計」を毎時間、毎時間行った上で、その日のクラスごとの「レッスン・プラン」を執筆。「レッスン・プラン」をたえず参照しながら、できるだけ「レッスン・プラン」に沿った授業を行う。

(3)授業中の生徒の発言や気がかりなことは、赤で「レッスン・プラン」の中に記入。授業後は必ず「リフレクション(省察)」を行ってその日の授業を振り返り、その内容を「レッスン・プラン」の中に具体的に記入。

(4)次回の授業準備の前には必ずその授業の初回から前回までの「レッスン・プラン」を通読する。そして、その日の「授業の設計」を行って「レッスン・プラン」を執筆し、授業に臨む。

「レッスン・プラン」の中には必ず「本日の目標」、その日の授業が終わったらどのようなことができるようになるかを「～することができる(Can Do キャンドウ)」の形で明示。

- (5) 1 か月に 1 回、1 学期に 1 回、それまでの「レッスン・プラン」を必ず見直し、授業を微調整。年度の最後にも通読し、改善内容を記入。このような「レッスン・プラン」は先生としての成長の記録となりますので、捨てずに必ず一定の場所に保存を。

Q：先生として授業の準備はどのようにしたらよいとお考えですか。

A：(1) どんなにベテランの先生でも、担当する教科の小学校 1 年生から高校 3 年生までの 12 学年分の「学校の教科書」は、毎年 1 回、ゆっくりと読み込むこと。

- (2) たとえ小学生を教える場合でも、高 3 生までの学校の教科書程度の内容は完全に理解して身に付けておくこと。また、高校生を教える場合にも、小学校・中学校の内容を完全に理解して身に付けておくこと。

- (3) どの教科書がよいかを見比べたいときは、大都市にある教科書を取り扱っている書店に年に何回か出掛けることをお勧めします。東京都なら神田の三省堂書店 6F に教科書販売コーナーがあり、教科書が自由に買えます。

- (4) 授業で実際に用いる教材は、授業直前ではなく、その年の授業がスタートする前に一通り通読。「辞書」や「用語集」を手元に置き、わかりにくい語句は一語残らず調べてノートに記入しておくこと。

＊中高生に古文を教えるなら、小西甚一著「新装版基本古語辞典」大修館書店刊が、同著者の「古文の読解」ちくま学芸文庫刊と同様に極めて有用。

- (5) 説明が難しいと思われる単元は、各教科の代表的な学年別参考書や学校教科書の指導書で必ず確認。必要なことはノートやカードにメモすること。

- (6) 講談社学術文庫や岩波ジュニア新書、講談社ブルーバックスをはじめとする文庫本や新書本で、各教科の単元の理解に直接役に立つ本が山のように出版されています。授業に役に立つ説明に出合ったら、カードにコツコツとメモを取り続けることです。生徒にも読むようにお勧めください。

Q：計算や問題、入試問題はすべて解いておいたほうがよいのですか。

A：(1) 生徒の前で初めて問題を解くようでは、「先生」とは言えません。どのように簡単な問題でも必ずノートに解き、教え方を工夫すること。別な解き方や考え方があれば、それもノートにメモしておくことです。

- (2) 受験生を担当していてもいなくても、担当教科の毎年の全国入試問題集、生徒が受験するすべての学校の入試問題は 10 年分以上を必ず自分の力でノートに解いておくこと。

- (3) 大学入試センター試験の問題は 15 年分、追補問題を含めた 30 回分をその学年の授業がス

タートする前に必ずノートに解き、問題本文と設問、解説の内容をできるだけ頭に入れた上で教え方を工夫しないと、受験生は指導できません。

Q：何のために勉強するのがよくわからない生徒がいます。どうしたらよいのでしょうか。

A：(1)その教科を学ぶことが上級学校に進学したあとや社会に出てから、また、人の一生においてどのように役に立つのかを、先生としてゆっくりと時間をかけてわかりやすく具体的に説明してあげることです。

(2)そのためには、先生として小学校や中学校、高校、大学、短期大学、専門学校、大学院、様々な職業、様々な人生、様々な国々、老後のことを深く学ぶことです。

(3)新聞は知識の宝庫。先生として 1 日に 1 時間以上、できれば複数の新聞を読み、必要な記事は生徒に紹介してあげましょう。英語の先生でなくとも英字新聞を毎日読むことです。

(4)図書館や美術館、博物館、科学館、植物園、公園などの社会教育施設に生徒とともにどんどん出掛け、活用の仕方を生徒に指導しながら興味・関心、更には自覚を促しましょう。

Q：自覚を促すですか。難しそうですね。

A：教育の成果を決定するのは「本人の自覚」と「先生の力量」であると私は考えます。「本人の自覚を促す」ことは「先生の力量」に含まれます。開倫塾では、「本人の自覚を促す」ために毎回の授業時間中に 3 分間の「武者語り」を入れて、先生方に各々の熱い思いを自由に語って頂いています。「本人の自覚」は「学習の仕方」の工夫や「学習時間」の確保に直結しますので、高い学習効果が生まれます。

Q：最後に、先生にとっての大切なトレーニング・訓練とは何ですか。

A：(1)3 つあります。第 1 は、ボイスト・レーニング、つまり、発声訓練です。舞台俳優の台詞はたとえ小声であっても、奥まった客席からでも聞き取れるそうです。腹式呼吸、口の開き方などアナウンサーや舞台に立つ人から教わることは多いと思います。

(2)第 2 は、体力トレーニング。村上春樹は、「1Q84」を毎日午前中 5 ～ 6 時間、3 年間かけて執筆。体力を鍛えるために走り続けたそうです。授業をするにも体力が要りますので、週に 1 回以上はジムに通って体力トレーニングをすることをお勧めします。

(3)第 3 は、スマイル・トレーニング。魅力ある先生は皆、笑顔が素敵です。清々しい笑顔はあらゆる人を魅了します。

(4)練習は不可能を可能にします。いつまでも明るく元気、素敵な先生を目指しましょう。

(学校法人 有朋学園 有朋高等学院(福島市)、理事長
国立大学法人 宇都宮大学大学院工学研究科、客員教授)

— 2014 年 3 月 26 日記 —